

平成29（2017）年度
事業計画書

目 次

1	方 針	1
2	事業計画	
(1)	科学振興のための研究助成と研究交流	2
(2)	教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施	5
(3)	科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は、大正13（1924）年に（財）科学知識普及会として設立され、長きにわたり雑誌『科学知識』を発行することにより、難解な科学を多くの方に少しでも分かりやすく伝えることをそのミッションとしてきた。

2016年は大隅良典・東京工業大名誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞し、日本のノーベル賞受賞は3年連続となり、日本の科学・技術が高い水準であることを証明したものの、若手研究者のポストク問題や、基礎研究に没頭しにくい成果重視の風潮、子供たちの理科離れ等により、日本の科学・技術の将来は決して楽観できる状況にはない。

本会では引き続き「科学と社会をつなぐ」という使命を果たすため、下記の通り2017（平成29）年度の事業計画を策定した。

（1）科学を担う人材の育成

科学・技術に関する若手研究者の育成を図るために、科学研究に対する研究費の助成や科学者の素養をより広く醸成できるよう研究会を主催する。また、その研究成果を社会が直面する課題の解決に活用されるよう、広く一般に公表する。加えて、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、専門家が主にメール（場合によってはフィールドで）個別指導を行うプログラムを実施する。

（2）図書の寄贈を通じた文化交流等

国内で収集した図書（日本語）を中国の主要な大学図書館等へ寄贈し、日本語を学ぶ学生たちの日本文化に対する理解促進を図る。また中国国内で「日本をテーマとした」知識を大学対抗で競わせるクイズ大会や作文コンクールや読書感想文を実施し、成績優秀者を日本に招聘し、日本人学生との交流を通して、対日理解を深める。更に日本国内では「中国をテーマ」作文コンクールを実施し、同様に成績優秀者には訪中機会を提供することにより、民による相互理解・友好関係の構築を目指す。

（3）科学の魅力を社会に伝える

本会が制作した科学の教材（DVD映像やWebサイト、テキスト等）を通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子どもたちや文系の学生、一般の方々に対して、科学的素養を醸成する。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

(日本財団助成事業)

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進に努めることにより、科学研究の振興を図る。

① 若手研究者の研究奨励

イ. 一般科学研究助成

- イ) 内 容 : 萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究 : 人文・社会科学および自然科学 (ただし、医学を除く)に関する研究
- ニ) 対 象 者 : 大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者 (外国人留学生を含む)
- ホ) 助成金額 : 約650千円/件 (助成予定件数 240件)

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

- イ) 内 容 : 教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体 (NPOを含む)において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究
 - a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究 :
学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究
 - b. 学芸員・司書等が行う調査・研究 :
学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究
- ニ) 対 象 者 : 専門的立場にある者 (教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等) あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など
- ホ) 助成金額 : 約330千円/件 (助成予定件数 30件)

ロ. 海洋・船舶科学研究助成

- イ) 内 容 : 海洋・船舶科学関連の、萌芽性、新規性または独創性のある研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集

ハ) 対象となる研究：

「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」で、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）

ニ) 対象者：大学院生あるいは大学等の所属機関で研究活動に従事する者であって、35歳以下の者（外国人留学生を含む）

ホ) 助成金額：700千円/件（助成予定件数 50件）

③ 研究助成の推進

イ) 内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。

ロ) 平成30年度「笹川科学研究助成」助成計画策定

- a. 募集要項、選考方針等の策定
- b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
- c. 平成30年度の研究助成計画の策定

ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理

笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管

ニ) 研究助成実績に関する資料の整備

「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

ホ) 制度創設30周年に向けての業務打合せの開催

④ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

イ) 平成29年度助成

- a. 内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
- b. 対象者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
- c. 助成金額：約200千円/件（助成予定件数 70件）

ロ) 平成30年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」

イ) 対象件数：平成28年度助成者のうち、領域ごとに選出された計16名以内

ロ) 賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。

ハ) 選考：研究領域別選考委員会にて選考する。

ニ) 表彰内容：賞状および副賞各100千円

ロ. 研究発表会の開催

イ) 開催時期：平成29年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）

ロ) 内 容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答

ハ) 参 加 者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約400名

⑥ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

イ. 開催時期：平成29年4月下旬

ロ. 内 容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談
指導、研究者の相互交流

ハ. 参 加 者：平成29年度助成者（自由参加）、来賓、指
導教官、関係者など約400名



⑦ 笹川科学研究助成プロジェクト報告書の作成

イ. 内 容：

笹川科学研究助成制度30年を振り返り、本研究助成制度の変遷や過去の実績等を整理し、研究助成制度とその社会貢献と、それらを踏まえた今後の方向を、OB・OG、若手研究者、関心のある人たち、助成事業関係者等に広く伝え、笹川科学研究助成へのさらなる理解と関心を高めてもらうことを目的に、笹川科学研究助成プロジェクト報告書を作成する。

ロ. タイトル：「笹川科学研究助成～30年をふりかえって～」(仮)

ハ. 制 作 物：A4サイズの冊子、128頁程度

ニ. 構 成：本編と資料編の2部構成

ホ. 発行部数：2,000部(暫定)

ヘ. 配 布 先：

若手研究者、研究助成に関心のある人たち(研究指導者、国公立大学の研究助成課等)、OB・OG、研究助成事業関係者など

ト. 活用方法：科学研究における本制度の価値(意義)への理解と関心を高めるための広報・宣伝用としての活用や、過去の事象を正しく残し、今後の研究助成事業への指針の資料として活用する。

事業経費：248,510千円（事業費：207,000千円、事業管理費：41,510千円）

(2) 事業名「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」

(日本財団助成事業)

日本国内で収集した教育・研究図書の中国の大学等への寄贈、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに5事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施することにより、将来を担う人材を育成し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図る。

① 図書寄贈

イ. 内 容 :

各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の大学等に継続寄贈する。

ロ. 図書の収集、寄贈

イ) 収集 : 15万冊/年

ロ) 寄贈 : 15万冊/年

ハ. 寄贈対象 : 中国71大学等

ニ. 寄贈方法 : 中継寄贈システムにより集約寄贈

② 笹川杯全国大学日本知識大会

イ. 内 容 :

中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ. 参 加 者 : 中国全土の約100大学の日本語学習者

ハ. 日本招聘 : 優勝者等20名



③ 作文コンクール

イ. 笹川杯作文コンクール ―感知日本―

イ) 内 容 :

中国全土の若者を対象として、“日本”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関 : 人民中国雑誌社

ハ) 応募資格 : 満16歳～45歳の中国国民

ニ) 日本招聘 : 優勝者等5名

ロ. “本を味わい日本を知る”作文コンクール

イ) 内 容 :

中国全土の大学図書館を窓口とし、中国の大学生を対象にする日本関係図書の読書感想文を中国語で募集する作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 応募資格 : 中国全土の大学生

ハ) 日本招聘：優勝者 5 名

ハ. P a n d a 杯全日本青年作文コンクール

イ) 内 容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和国駐日日本国大使館

ハ) 応募資格：満 1 6 歳～ 3 5 歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞等 1 8 名

④ 新規関連事業等の企画・立案

事業経費：119,440千円（事業費：61,000千円、事業管理費：58,440千円）

(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

(モーターボート競走法制定40周年記念基金事業・笹川科学活性化基金事業)

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

① 科学実験データベースの公開

イ. 内 容：身近な生活のなかにも、実は密接なかかわりを持っている「科学」の世界をリニューアルしたウェブサイトを通して一般に公開する。

イ) 「科学実験データベース」の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校でいつでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目(分野、季節、場所、対象年齢、難易度など)を設けて公開する。

ロ) 「コラム」の公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

ロ. 実施方法：本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

ハ. 委託内容：委託の内容は公開情報の追加及び情報の充実と修正管理業務

② 地球科学の理解促進

イ. 内 容：

本会で制作した短編映像「Cubic Earthーもしも地球が立方体だったらー」を用いて、学校教育・社会教育における学びの場で出前講義を積極的に展開し、地球科学の理解促進に努める。

ロ. 出前講義：

イ) 対 象：小・中・高等学校・大学の学生、教員、市民等

ロ) 開催回数：15回



③ 高校生のためのサイエンスメンター事業

科学に特に興味をもった高校生を対象に、経験豊かな科学者による研究指導事業（サイエンスメンター事業）を実施し、次代の科学・技術を担う人材の育成を目指す一方、難解となりがちな科学・技術を、分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行うことで、社会への科学・技術の浸透を図る。

イ. 指導対象者：

対象者（メンティ）は、ある特定の科学（理科）に関心を持ち、研究テーマが設定されており、学校教育の枠を超えて調査・研究を進めている意欲のある高校生で、専門家の指導を強く望んでいる者



ロ. 指導者：

指導者（メンター）は、自然科学・応用科学の分野で、大学・研究所・博物館で実際に研究を行っている専門家及びその他の研究者

ハ. 指導の主眼と方法：

メンターは、メンティが設定した研究テーマの進展をサポートする過程で、採取した試料の分析や保存の方法、機器の扱い方や観測データの読み方、観察や調査結果のまとめや整理の仕方等々、およそ研究者として備えるべき基礎的な素養やルールを身に付けさせる指導に主眼を置くものとする。

このため、これを有効に機能させるため、フィールドワークや実験といった現場での対面指導のほか、メンター・メンティ間で常時メールによる指導を行うものとする。

同時に、担当教諭・メンター事業委員長・事務局も加わったメーリングリストで指導情報を共有し、状況に応じて指導の実効を高めるための必要な措置を、関係者で講じることとする。

ニ. 指導対象区分と対象件数：

個人指導 20件程度

ホ. 指導期間：原則1年以内とする。但し、再申請を可とする。

ヘ. 中間報告：研究の進捗状況を確認し、メンティ間の交流とモチベーションの向上を図り、実践を学ぶ機会を提供するため、中間期に中間報告会を開催する。

ト. 発表：

本会は、指導を受けたメンティの研究結果公表の場として、発表会を開催し、その機会を提供する。

また、指導期間中、一定の成果を得ている研究については、対外的な発表へのエントリーを積極的に促し、メンティの一層の資質向上を図ると同時に、サイエンスメンター事業の実効を広く周知するものとする。

チ. 募集と審査・選考：

次年度のサイエンスメンター事業の参加希望者の募集及び選考と、メンターの選任等を行う。

④ 生命科学テキスト「人間の生命科学」の制作

イ. 内 容 :

一般の方々、特に若い学生に現代人の基礎知識として生命科学を身につけてもらうことを目的に、人間を社会の中で生きる生命のという視点から捉え、「ヒトの誕生から死までの全体（マクロ機構）からミクロの機構へと逆行する」という、今までの教科書にはないコンセプトのもとに大学等教育機関で使用するテキストを製作、本テキストを活用したトライアル授業を開始する。

ロ. タイトル :

「人間の生命科学 ―現代社会に生きるために、生命科学の基礎知識」（仮）

ハ. 著 者 :

公益財団法人日本科学協会「人間の生命科学（仮）」制作委員会

本テキストは公益財団法人日本科学協会の著作物として制作し、大学など教育機関に公開・提供する。

ニ. 対象者および使用機会 :

イ) 文科系の大学生（短大生含む）が第一義の対象者。

ロ) 文科系一般教養科目の生物系課目、家政・看護・介護・保育・教育・福祉・栄養などの授業のテキストとして使用することを想定。

ホ. 制作物 :

イ) 第1ステージ 電子図書版

ロ) 第2ステージ Web版、トライアル授業用印刷版

ヘ. 制作スケジュール :

イ) 第1ステージ 2016年4月より作成を開始した電子図書版を2017年5月に完成。

ロ) 第2ステージ 電子図書版をベースにしながらも、Webのメディア特性を生かした自由検索型Web版及びトライアル授業用印刷版の制作を段階的に進める。

ト. トライアル授業

テキストを利用して大学等の教育機関でトライアル授業を実施する。

⑤ 科学隣接領域の研究

イ. 内 容 :

自然科学の枠を超えた領域の専門家が集まり、宗教、倫理、アートを切り口に科学研究や研究者について議論と考察を重ね、今後の研究助成のあり方や若手研究者の育成について討議し、講演会・出版などを通して、創造的かつ国際的な若手研究者の育成を目指す。

ロ. テ ー マ : 科学と「宗教」、「倫理」、「アート」

ハ. 研究会・講演会（講演録等の制作含む）・出版等 :

研究会…「倫理」、「アート」

講演会・出版…「宗教」、「倫理」

※平成30年までに「宗教」、「倫理」、「アート」についての研究会を各3回ずつ開催し、その後講演会や出版を行う。最後にまとめとして「未来への科学」についても同様に研究会・講演会を開催し、本研究の成果として冊子にまとめる予定。

事業経費：54,600千円